



コンポーネントウェア特集に寄せて

取締役 システム本部長
兼ソフト・サービス事業推進本部副本部長

広瀬 勇二

昨今、企業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。ユーザーニーズの多様化、新商品/新サービスの迅速な提供、コストダウンの徹底、ネットワークによる市場やビジネス形態の拡大、モバイル技術の有効利用、国際標準への準拠など、いずれも早急に対応しなければならない課題を企業は抱えています。これらの課題をコンピュータシステムで解決するためには、やはりコンピュータシステムの方にも変化に容易に対応できる柔軟性やアプリケーション開発の高い生産性が求められます。

本特集号のテーマである「コンポーネントウェア」は、こうした時代のニーズに応え得るアプリケーションソフトウェアの新しい開発技術です。システムをゼロから作っていくのではなく、すでにあるコンポーネント、つまり部品を組み合わせて一つのシステムにしていく、この考え方自体はハードウェアや他の工業製品では当たり前でしたが、ソフトウェアの世界ではなかなか実現されていませんでした。ソフトウェアを部品として標準化し流通させるためには、部品間のやりとりの規約化など基盤技術の整備が不可欠だったからです。

コンポーネントウェアが最初に定着したのは、クライアントアプリケーションの分野、特に、いわゆるGUI(グラフィカルユーザインタフェース)部品の分野でした。ActiveXやJavaBeansといった基盤技術の進展がこれを支えています。現在、単なる文字列入力フィールドからDBアクセス付きの表形式部品などの高機能部品まで、多数のGUIコンポーネントが開発・提供され、クライアント画面の開発に広く利用されています。

そして、サーバアプリケーションの開発にもコンポーネントウェアを利用しようという試みが始まっています。オブジェクト指向技術を応用した各種フレームワーク、今後のネットワークコンピューティングの中心となるCORBA上の分散オブジェクト、最近ではEJB(エンタープライズジャバビーンズ)規約にのっとったコンポーネントなど、サーバアプリケーション向けの新しい基盤技術とその上で動作するソフトウェア部品が実用化されようとしています。

富士通は、こうしたコンポーネントウェアの新技术の開発に積極的に取り組んでおり、その応用製品を提供しています。中でも、高機能GUI部品を集めたクライアントコンポーネント、オンラインフレームワークを中心とするサーバコンポーネント、それらの実行環境を提供するネットワークコンピューティング基盤INTERSTAGE、そしてコンポーネント指向の開発方法論と開発支援環境については、本特集のそれぞれの論文で詳しく紹介しております。是非、ご一読いただきたく存じます。

富士通は、お客様のシステム開発に役立つこの新しい開発技術、コンポーネントウェアの研究と実適用を、今後とも積極的に推進して参ります。お客様の皆様には、これまでも増して、ご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。